

# 令和4年度 事業報告

令和4年4月1日から

令和5年3月31日まで

事業概要 .....	1
1 法人の概況 .....	2
(1) 設立年月日等	
(2) 定款に定める目的	
(3) 定款に定める事業内容	
(4) 役員等に関する事項	
(5) 会議の開催状況	
2 事業の実施状況 .....	5
【公益目的事業】	
公1 産業技術支援事業 .....	5
1 人材育成	
(1) 研修指導事業	
(2) 技術者研修助成事業	
2 企業等の技術力向上支援	
(1) 研究開発助成事業	
(2) 財団活動PR事業	
公2 高度技術研究開発等推進事業 .....	7
1 技術研究開発	
(1) 高度技術開発・応用研究事業	
(2) 起業化支援研究等推進事業	
(3) シーズ活用支援事業	
(4) 共同研究開発事業	
(5) 研究開発プロジェクト事業	
(6) 技術研究開発成果フォローアップ事業	
2 北海道立工業技術センター運営管理	
(1) 北海道立工業技術センター指定管理者事業	
(2) 維持管理事業・維持運営事業	
(3) 試験分析事業	
(4) 技術相談事業	
(5) 研修事業	
(6) 技術情報提供事業	
(7) 広報等事業	

公 3 地域産業活性化支援事業 ..... 1 0

1 中小企業等支援

(1) 市場販路開拓等事業

2 函館市産業支援センター運営管理

(1) 函館市産業支援センター指定管理者事業

(2) 産業支援センター財団独自事業

3 起業者への育成・支援

(1) 起業化促進事業

4 地域産業活性化

(1) 広域的産業立地支援事業

【収益等事業】

収 1 受託等事業 ..... 1 7

(1) 受託研究開発事業

(2) その他受託事業

(3) 知的財産活用促進事業

財団運営課題について ..... 1 8

## 事業概要

長引く新型コロナウイルス感染拡大の影響に加え、ウクライナ戦争の長期化や円安の影響によるエネルギー・食料価格の高騰、世界的な物価上昇等、厳しい状況が続いていますが、年度末にかけて感染者数は減少し、日本経済も緩やかに持ち直してきました。

函館地域においても、コロナの影響により幅広い業種に大きな影響が出てきましたが、観光業を中心に持ち直しの動きがみられました。一方、函館市と北大などと連携し4年度に採択された内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業「函館マリカルチャープロジェクト」では、キングサーモンとコンブの完全養殖やその事業化に大きな期待が寄せられております。

こうした経済環境の下、「様々な地域資源を地域の英知を集めて活用し、持続的な産業振興を図る」ことを中・長期的な基本方針として数多くの取組を進めてまいりました。日銀の金融緩和が継続する中、十分な運用益の確保が出来ない状況に変わりなく、加えてコロナの影響もありましたが、実施方法の変更などにより積極的に対応してまいりました。

また、北海道立工業技術センター試験研究用機器の更新や研究員の補充は順調に進んでおり、さらに令和元年度の『北海道 AI・IoT オープンイノベーション・プラットフォーム』開設に伴う IoT 分野の試験研究・評価機器も加え、これらを活かして地域産業の高度化と活性化を図っているところです。以下、令和4年度の事業重点項目に沿って、当財団の活動概況を報告します。

### 事業重点項目1 工業技術センターの地域企業による有効活用の促進

研究成果発表会は会場とオンラインの同時開催とし、併せて研究成果をホームページで公表した他、工業技術センターに新たに追加された機器や更新された機器に関して、コロナ対策を取ったうえでセミナー等を通じてPRし、地域企業に対して積極的な活用を促すとともに、地域の中小企業からの技術相談を通して新たな地域ニーズに対応した。また、外部資金事業等を活用して地域の特性に根ざした産学官連携研究をさらに発展させ、受託共同研究等を通じて新たな技術や製品の創出に導き、函館地域はもとより北海道における技術の高度化と北海道経済の発展に貢献した。

### 事業重点項目2 先端技術の導入支援等による地域企業の生産性向上

地域課題の解決に向け、技術相談や受託・共同研究等を積極的に行って地域ニーズを的確に把握し、地域企業に対し、基盤技術の高度化、製品化研究、製品改良、生産工程・設備保全技術の改善・効率化等に向けたマネージメントを行い、次に地域の大学高専等の学術機関や道総研等の試験研究機関と連携して、IoT や AI 等の先端技術も活用しつつ地域企業の生産性向上を図り、持続可能な地域産業の構築に貢献した。

### 事業重点項目3 「ウィズコロナ」下における創業等に対する支援

函館市産業支援センターの各種機能の活用を図りつつ、認定連携創業等支援事業者として函館市、北斗市、七飯町と一体となって創業バックアップ助成や創業スキルアップ講座、ビジネスプラン作成スクールを開催したほか、経営者や各種専門家等による支援者ネットワークを構築し、創業予定者を含め創業初期から成長期に至るまで継続的に支援した。また、函館市産業支援センター入居企業や卒業企業への継続的フォローアップも行い、新分野進出や起業化により新事業展開を図る企業を支援した。



## 1 法人の概況

### (1) 設立年月日等

昭和59年	4月	3日	財団法人テクノポリス函館技術振興協会として設立
平成13年	4月	1日	財団法人函館地域産業振興財団に名称変更
平成23年	3月	25日	北海道知事から公益財団法人への移行認定通知
平成23年	4月	1日	公益財団法人函館地域産業振興財団に移行

### (2) 定款に定める目的

この法人は、函館地域の高度技術に立脚した産業開発を促進し、もって北海道の産業経済の発展に寄与することを目的とする。

### (3) 定款に定める事業内容

- ① 高度技術の開発又は利用に関し、事業を営む者又はその従業員に対して研修又は指導を行うこと。
- ② 高度技術に立脚した産業開発を促進するために必要な施設の整備に係る調査研究を行うこと。
- ③ 高度技術に立脚した産業開発を促進するために必要な啓発を行うこと。
- ④ 企業等が高度技術の開発を行い、又は高度技術の製品の開発に利用するために必要な資金について助成を行うこと。
- ⑤ 高度技術の開発を行い、及びその成果を普及すること。
- ⑥ 北海道立工業技術センターの維持運営事業を行うこと。
- ⑦ 技術シーズの起業化を促進するために必要な事業を行うこと。
- ⑧ 北海道立工業技術センターの指定管理者事業を行うこと。
- ⑨ 函館市産業支援センターの指定管理者事業を行うこと。
- ⑩ その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

### (4) 役員等に関する事項

理事、監事及び評議員について、所属団体等における令和4年度中の人事異動に伴い辞任届の提出があり、評議員会において後任者を選任した。令和5年3月31日時点の理事、監事及び評議員は次のとおりである。

#### 【理事会】

役 職	氏 名	現 職
理事長（代表理事）	久保 俊幸	函館商工会議所 会頭
副理事長（業務執行理事）	安井 肇	北海道立工業技術センター センター長
専務理事（業務執行理事）	阿部 英敏	北海道立工業技術センター 副センター長
理 事	菅野 則彦	北海道渡島総合振興局 産業振興部地域産業担当部長
理 事	小林 利行	函館市 経済部長
理 事	松野 憲哉	北斗市 経済部長
理 事	磯場 嘉和	七飯町 商工労働観光課長
理 事	浜出 雄一	株式会社東和電機製作所 会長
理 事	吉村 健太郎	函館特産食品工業協同組合 副理事長
理 事	菅 育正	株式会社菅製作所 代表取締役社長
理 事	藤原 鉄弥	株式会社フジワラ 代表取締役
理 事	工藤 英洋	日乃出食品株式会社 代表取締役社長
理 事	千葉 仁	株式会社天狗堂宝船 代表取締役
監 事	米田 和志	株式会社北洋銀行 常務執行役員 函館中央支店長兼末広町支店長
監 事	酒井 幸次	函館商工会議所 専務理事

【評議員会】

役 職	氏 名	現 職
評議員	石丸 幸夫	北海道渡島総合振興局 副局長
評議員	谷口 諭	函館市 副市長
評議員	工藤 実	北斗市 副市長
評議員	宮田 東	七飯町 副町長
評議員	都木 靖彰	北海道大学大学院 水産科学研究院長 大学院水産科学院長 水産学部長
評議員	片桐 恭弘	公立はこだて未来大学 理事長兼学長
評議員	阿部 恵	函館工業高等専門学校 校長
評議員	村瀬 充	函館商工会議所 副会頭
評議員	古伏脇 隆二	函館特産食品工業協同組合 理事長
評議員	喜多村 悟	北海道電力ネットワーク株式会社 函館支店長
評議員	服部 誠	函館どつく株式会社 取締役執行役員 新造船事業本部長兼函館造船所長
評議員	市沢 和彦	太平洋セメント株式会社 上磯工場長
評議員	千田 大貴	株式会社日本政策金融公庫 函館支店長

(5) 会議の開催状況（評議員会、理事会、技術審査委員会、地域技術選定委員会）

開催日/場所	議事事項	結果
第1回定例理事会		
令和4年5月30日	[報告事項] ① 職務執行状況に係る報告について [決議事項] ① 令和3年度事業報告について ② 令和3年度計算書類、附属明細書及び財産目録等について ③ 評議員会に提案する評議員候補者について ④ 評議員会に提案する役員候補者について ⑤ 評議員会の開催に関する事項について ⑥ 令和4年度事業計画の一部変更について ⑦ 令和4年度収支予算の補正について	全ての議案について、原案のとおり可決した。
定時評議員会		
令和4年6月24日	① 令和3年度事業報告並びに計算書類、附属明細書及び財産目録等の承認について ② 評議員の辞任及び選任について ③ 役員の辞任及び選任について	全ての議案について、原案のとおり可決した。
技術審査委員会		
令和4年7月5日 北海道立工業技術センター会議室	令和4年度研究開発助成事業 1件の審査	申請どおりの助成額にて決定した。
みなし決議による理事会		
令和4年8月10日 (みなし決議)	① 評議員会に提案する評議員候補者について ② 評議員会に提案する役員候補者について ③ 評議員会の決議に関する事項について	議案について、原案のとおり可決した。

みなし決議による評議員会		
令和4年8月26日 (みなし決議)	① 評議員の辞任及び選任について ② 役員の辞任及び選任について	議案について、原案のとおり可決した。
第2回定例理事会		
令和5年3月24日 北海道立工業技術 センター会議室	<p>[報告事項]</p> <p>① 職務執行状況に係る報告について</p> <p>[決議事項]</p> <p>① 令和4年度事業計画の一部変更について</p> <p>② 令和4年度収支予算の補正について</p> <p>③ 事務局幹部職員の任免について</p> <p>④ 令和5年度資金運用執行方針及び運用計画について</p> <p>⑤ 令和5年度事業計画について</p> <p>⑥ 令和5年度収支予算について</p> <p>⑦ 令和5年度運営資金借入限度額、資金調達及び設備投資の見込みについて</p> <p>⑧ 役員等賠償責任保険契約について</p>	全ての議案について、原案のとおり可決した。

## 2 事業の実施状況

### 【公益目的事業】

#### 公1 産業技術支援事業

##### 1 人材育成

###### (1) 研修指導事業

地域企業の高度技術の開発・利用を促進するため、企業の経営者・技術者等に対し、下記のとおり産業技術研修や指導・助言等を行った。

###### ① 産業技術研修

テーマ等	実施日	実施場所	講師等	参加人数
IoT 入門ハンズオンセミナー	令和4年9月22日	北海道立工業技術センター 研修室	株式会社飛雁 福田 和宏 氏	14名
はじめてでも良くわかる「食品表示の作り方」と「今後の表示基準」	令和4年10月24日	北海道立工業技術センター 会議室	Correct Label 株式会社 代表取締役 藤原 和樹 氏	36名
表面観察の最新動向と共焦点レーザ顕微鏡観察技術	令和4年10月27日	北海道立工業技術センター 研修室・材料実験室	株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE マテリアル_インフラストラクチャーソリューションユニット インストルメンツエキスパートグループ 藤井 岳直 氏	10名
異物事故の初期対応と異物検査の有効活用	令和5年1月19日	北海道立工業技術センター 会議室	イカリ消毒(株) 異物分析部 科学分析課・主任 中野 かおり 氏	26名
XR コンテンツ活用・体験講座	令和5年2月9日	北海道立工業技術センター 研修室	(地独)北海道立総合研究機構 工業試験場 ものづくり支援センター ものづくりデザインG 安田 星季 氏	9名
粉体測定セミナー～粉の大きさ測定方法～「粉体測定の最新動向と粒度分布測定技術」	令和5年2月21日	北海道立工業技術センター 研修室	マイクロトラック・ベル(株) 営業部 東京営業所 小原 滋 氏	3名

###### ② 技術コンサルティング事業

申込み実績なし

###### ③ 研修生受入れ

受入れなし

###### (2) 技術者研修助成事業

地域企業の技術者等を中小企業大学校及び先進企業等に派遣して研修を行わせるために要する経費の一部助成を行った。

助成件数 2件4名

## 2 企業等の技術力向上支援

### (1) 研究開発助成事業

高度技術の開発促進や高度技術を利用する企業の育成のため、次の1件について助成した。

企業名	研究開発テーマ名	助成額
北海道マリンイノベーション㈱	フコキサンチン安定化粉末を用いた商品の研究開発	3,000 千円

### (2) 財団活動 PR 事業

財団の支援制度や北海道立工業技術センターの各種事業の PR と利用を促進するため、次の事業を実施した。

区分	事業内容等
研究成果品等の PR 活動	渡島・檜山管内の自治体、商工団体、企業を訪問し、北海道立工業技術センターの利用促進を図るため、訪問し PR を兼ね情報交換を行なった。 以下の展示会・イベント等に北海道立工業技術センターブースを設け、研究成果を公表した。 第36回北海道技術ビジネス交流会（ビジネス EXP02022） 開催日：令和4年11月10日・11日 会場：アクセスサッポロ
財団WEBサイトの活用	・財団HPをスマートフォン等端末での表示に対応するためリニューアル更新を行い、各種セミナー・イベントをPRした。 ・「頑張ってる企業紹介」WEBサイトの更新・拡充を行った。（更新40社、新規追加2社、削除2社 紹介企業数42社）
メールマガジンの発行	財団・北海道立工業技術センター、関連する機関の情報を発信 発行回数：16回

## 公2 高度技術研究開発等推進事業

### 1 技術研究開発

#### (1) 高度技術開発・応用研究事業

地域のニーズに根ざした次の10テーマについて研究開発を行った。

- ① 地域産業のロボティクス最適化モデルに関する調査研究（R02～R04年度）
- ② 画像処理技術を用いた生産情報のデジタル化手法に関する技術開発（R04～R06年度）
- ③ 成膜技術を応用した焼結用黒鉛型の導電性制御に関する研究（R04～R06年度）
- ④ 食関連材料の高度冷凍技術に関する研究開発（R02～R04年度）
- ⑤ スパッタ成膜技術に関する研究（R03～R05年度）
- ⑥ 地域海藻素材の高度加工技術に関する研究開発（R02～R04年度）
- ⑦ 地域新規多獲性魚種の利用加工に関する研究開発（R04～R06年度）
- ⑧ 地域食品素材の機能性活用に向けた研究開発（R02～R04年度）
- ⑨ 地域資源に特異なDNA塩基配列の探索・利用技術の開発研究（R02～R04年度）
- ⑩ 凍結技術を活用した道産海藻資源の高価値化に関する研究開発（R03～R05年度）

#### (2) 起業化支援研究等推進事業

道内企業等の新分野参入や起業化を支援するため、研究課題の企画調整及び関係機関との連絡調整を行った。

#### (3) シーズ活用支援事業

工業技術センターや大学等の技術シーズを事業に活用する可能性の見極めや、地域企業等の製品開発初期段階の課題解決を行い新製品開発や新事業創出につなげることを目標とし、本年度は次のテーマで事業を実施した。

「酵素ナノ・マイクロバブルによるホタテガイの活力回復効果」

#### (4) 共同研究開発事業

企業等における研究開発や新製品の開発を促進するため、共同研究を実施した。

・令和4年度実績 13件（※個別の研究テーマは北海道立工業技術センター業務報告に掲載）

#### (5) 研究開発プロジェクト事業

##### ① 日本中央競馬会畜産振興事業

日本中央競馬会の助成事業。国産乳製品の国際競争力強化のため、輸入チーズとの差別化・優位性を訴求した国産チーズの開発・普及を図るため、「国産チーズ・イノベーション事業」のテーマで事業を実施した。

##### ② 科学研究費助成事業（基盤研究B）

日本学術振興会より助成を受けて実施した事業で、次世代に対応できる魚類の生体計測に向けて、生体内情報の可視化、計測、伝達を可能とするスマートバイオセンシングシステムを創出するため、QRコードを用いた情報通信システムの設計・製作と魚体への装着及びスマートバイオセンシングシステムの検証と評価を行った。

##### ③ イノベーション創出強化研究推進事業

農林水産省の委託事業で、革新的な技術・商品・サービスや研究成果の迅速な実用化・事業化を図る実証研究を支援している。本年度は「輸出促進を目指した生鮮水産物の品質制御と鮮度の“見える化”技術の開発」について実施した。

##### ④ 地方大学・地域産業創生交付金事業（函館マリカルプロジェクト）

内閣府が実施する交付金事業。函館市が主体となり、北海道大学を中心とする研究機関、企業、漁業者等が連携して行う。当財団では、生産量日本一のマコンブを対象とし、ゲノム情報によるブランド種苗管理技術の構築、ローカーボン型スマート乾燥システムの開発、生コンブの利用加工特性に関する研究開発、コンブ特有のにおいを解明・制御するための研究開発等を実施した。

⑤ 地域企業の先端技術人材確保・育成等支援事業

北海道の補助事業。地域企業に対し、技術支援コーディネーター（財団研究員職員）による基盤技術の高度化、製品化研究、製品改良、生産工程・設備保全技術の改善・効率化等生産性の向上及び人材確保等に関するニーズや課題の把握、改善に向けたマネージメントを行い、またこれらの課題解決に向けて技術支援等を実施した。

⑥ 若手研究人材育成事業

ノーステック財団の補助事業。ロボットの導入促進が推奨されている食品製造業向けとして、使い捨てにより衛生面の問題を解決する安価な紙材料のディスプレイロボットハンドの形状の最適化等に関する研究開発を実施した。

(6) 技術研究開発成果フォローアップ事業

① 研究開発成果フォローアップ事業

これまでに蓄積された北海道立工業技術センターの研究開発成果や受託・共同研究開発成果のフォローアップ、知的財産出願等の促進及び研究員の資質向上を図った。

**2 北海道立工業技術センター運営管理**

(1) 北海道立工業技術センター指定管理者事業

北海道から指定管理者の指定を受けて、施設設備の維持管理、会議室・研修室及び試験分析機器の貸出業務、見学者・来客者への対応等を行った。

(2) 維持管理事業・維持運営事業

北海道立工業技術センターの試験研究機器修繕等の維持管理を行った。

(3) 試験分析事業

地域企業等からの依頼を受けて、元素分析や食品の微生物検査等の各種試験分析を実施した。

・依頼試験・分析件数 148件

(4) 技術相談事業

企業等の実施する新製品開発・製造工程等の技術的課題等を解決するための技術相談を行った。

① 個別技術相談

地域企業等から技術的な課題等について相談を受け、助言した。

・相談件数 630件

② 巡回技術相談

地域企業の技術向上を図るため、北海道立工業技術センター研究員が生産現場を巡回し、企業が当面している技術的な課題について相談を受け、助言した。

・相談件数 5件

(5) 研修事業

研究開発の成果や新技術の普及を図るため、研究成果発表会や研修会を開催した。

① 一般技術研修

内容	実施日	参加人数
研究成果発表会（会場開催及びYouTube 配信）	令和4年5月26日	会場 55 配信 106
IoT 入門ハンズオンセミナー	令和4年9月22日	14
はじめてでも良くわかる「食品表示の作り方」と「今後の表示基準」	令和4年10月24日	36
表面観察の最新動向と共焦点レーザ顕微鏡観察技術	令和4年10月27日	10

異物事故の初期対応と異物検査の有効活用	令和5年1月19日	26
X Rコンテンツ活用・体験講座	令和5年2月9日	9
紛体測定セミナー ～粉の大きさ測定方法～	令和5年2月21日	3

## ② 個別技術研修

企業等の多様な技術的な課題に対応するための個別研修を実施した。

- ・開催回数 65回
- ・開催日数 84日
- ・参加人数 88名

## (6) 技術情報提供事業

日本工業規格（J I S）の最新版、工業技術に関する専門図書、国内研究機関・大学・大手企業等の研究報告書、定期刊行物等を図書資料室に開架し、一般の利用に供した。

## (7) 広報等事業

北海道立工業技術センターの積極的な活用を図るため、次の事業を実施した。

名称	実施日等	内容
「HITEC ニュース」をWEBサイトに掲載	令和4年6,9,12月 令和5年3月	活動報告を中心とした技術情報の提供
「北海道立工業技術センター業務報告」の発刊	令和4年5月	令和元年度業務内容の報告 発行部数：1,000部
メールマガジンの発行	随時	研修会の開催などセンターの活用等に関する情報の提供 登録数：約800アカウント

### 公3 地域産業活性化支援事業

#### 1 中小企業等支援

##### (1) 市場販路開拓等事業

##### ① 市場販路開拓等事業

##### ア 地域技術・製品市場販路開拓事業

##### A 第36回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）

ビジネス EXPOにおいて「はこだてビジネス交流ゾーン」を設置し、地域企業等の市場開拓・販路拡大の支援および工業技術センターが関わった企業との共同研究の成果等を紹介した。

- ・会期 令和4年11月10日・11日
- ・会場 アクセスサッポロ（札幌市）
- ・入場者 32,943名（リアル 23,857名、WEB 9,086名）

##### 【出展内容】

企業名	主な出展品
(株)アクトシステムズ	蓄電システム、通信変換器、USB-シリアルコンバータ
(株)グローバル・コミュニケーションズ	Kebbi Air (小型人型ロボット—AI機能で会話・温度測定など可能)
ナカ電子(株)	中空土偶6cmフィギュア、穴埋め君（外壁塗装用キャップ）、UV-C殺菌マスクシステム（試作品予定）
環境創研(株)	商品名 CRAP(クラップ) ※生コンスラッジと混合攪拌、スラッジに含まれる六価クロムを不溶化し、埋め戻し材や硫化水素吸着剤として利用
函館酸素(株)	食添用アルゴンガス エスプーマ
上加冷機工業(株)	J-cool Master100 食品用急速凍結機 J-Cool Master Defrost100 食品用高品質解凍機
北海道立工業技術センター及び財団紹介ブース	地域資源を活用した特徴のある企業製品の紹介、北海道立工業技術センター成果品の展示 他

##### B 第57回スーパーマーケット・トレードショー2023

地域企業が首都圏市場における販売ルートの開拓や販路の拡大を図ることを目的に、地域企業の支援を実施した。

- ・会期 令和5年2月15日～17日
- ・会場 幕張メッセ 全館
- ・入場者 62,525名

##### 【出展内容】

企業名	主な出展品
(株)アイケーフーズ	じゃがじゃがシューラスク
カドウフーズ(株)	白い半熟スイートポテト
昭和製菓(株)	函館チーズタルト 他
道南食品(株)	北海道サイコロキャラメル
(株)布目	北海道はたて貝柱チーズ、社長のいか塩辛極、他
函館米穀(株)	北海道産ふっくりんこ
山栄食品工業(株)	やわらかチーズ帆立 他

(有) タカハシ食品	にしん甘露煮、ホタテしぐれ煮、昆布巻 他
(株) 竹田食品	数の子松前 他
友栄 北海道かいこうマーケット(株)	玉ねぎ天かまぼこ
(株) 小原	コアップガラナ
(株) 天狗堂宝船	きびだんご、ひとくち味噌くるみ餅、よいとまけハスカップ餅 他

### C そごう大宮店「北海道の物産と観光展」Web 商談会

食品製造業の販促の場を提供するため、函館商工会議所と連携し ZOOM を活用した商談会を実施した。

- ・実施日 令和5年3月2日
- ・会場 函館商工会議所
- ・参加数 4社
- ・成立数 3社

### イ 出展支援事業

函館地域の企業等が展示会等に参加して自社の有する技術シーズをPRし、販路拡大を図るとともに、需要の開拓に必要な情報や他社の技術動向に関する情報等を収集するなどの活動に対し、助成を行った。

- ・実績 3件

企業名	実施日	展示会の名称	助成額
山栄食品工業(株)	令和4年9月7日 ～9月8日	フードストアソリューションフェア 2022北海道ゾーン	117千円
(株)エビスパック	令和4年12月6日 ～12月7日	2022よい仕事おこしフェア (コロナに負けるな!大商談会)	57千円
(有)福田農園	令和4年12月6日 ～12月7日	2022よい仕事おこしフェア (コロナに負けるな!大商談会)	88千円

### ウ デザイン支援事業

#### A デザインセミナーおよび個別相談会

商品デザインやパッケージデザインに対する地域企業の意識向上を図ることを目的として、函館地域の製造業等の経営者や従業員などを対象に、以下のセミナーおよび個別相談会を実施した。

名称等	実施日	実施概要	参加人数
デザインセミナー	令和5年2月3日 14:00～16:30 北斗市かなで〜	講演) 持続可能な社会の実現に向けてパッケージのできること ～サステナブルパッケージのソリューションと国内動向～ 講師 凸版印刷(株) 生活・産業事業本部 パッケージソリューション事業部 第一営業本部 軟包装販促部長 松本 純 氏	29名
個別相談会	令和5年2月24日	講師 ブルーム・エー 代表 岡田 暁 氏	1社

## 2 函館市産業支援センター運営管理

### (1) 函館市産業支援センター指定管理者事業

函館市より指定管理者の指定を受け、研究開発型企業及び新規事業を展開する企業を育成する施設である函館市産業支援センターの維持運営を管理業務仕様書に基づき実施するとともに、設置目的に資する事業を実施した。

① 施設の利用状況（令和5年3月末現在）

ア 入居者状況

（単位：件）

施設名	入居者数		
	継続	新規	退去
インキュベータールーム	2	2	2
インキュベーターファクトリー	2	3	2
プレインキュベータールーム	3	2	1

イ 施設利用状況

マルチメディアルーム利用者数	732人
視察等来館者数	152人

② 設置目的に資する事業

ア 入居者の募集、入居相談、PRに関すること

起業・創業を志す方を対象として、施設に利用促進や各種事業の開催についてPR等を行った。

A ホームページでの入居者募集PR

B 新聞報道および広報誌等への掲載

C ポスター掲示による入居者募集PR

配布先	配布先件数	枚数
関係機関・施設	14機関	15

D 入居相談 10件

イ 入居者・支援者の交流促進

A インキュベーション・マネジャー等による起業化支援

インキュベーション・マネジャー、工業技術センター研究員、支援センター職員が、入居者からの相談に対応し、技術的アドバイスや補助事業等の情報提供を行った。

B 入居者懇談会の開催

入居企業と支援関係者、函館テクノパーク立地企業を対象とした懇談会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、開催できなかった。

C 創業支援関係団体連絡会議の開催

函館地域において、起業・創業を志す方に対する支援を行う産業支援機関・金融機関等との連携を図り、総合的な育成支援を目的とした会議は、新型コロナウイルス感染症対策のため、開催できなかった。

D 起業化・創業支援セミナーの開催

函館地域の起業・創業に関するスキルアップや意識醸成を目的として、下記のセミナーを開催した。

名称等	実施日	実施概要	参加人数
創業支援セミナー	令和4年6月2日 13:30~16:30	プレゼン作成実践セミナー 講師：(株)グローバル・コミュニケーションズ 専務取締役 笹谷 努 氏	13名
新規事業セミナー (共同主催) ・北海道中小企業家同友会函館支部 ・函館市・北斗市・七飯町	令和4年6月10日 18:30~20:30 ベルクラシック函館・Zoom	パート事務員から3つの会社の社長となった 成り上がりヒストリー ～たくさんの連携の手が夢をつかむ～ 講師 MDファクトリー(株) 代表取締役社長 川端 政子 氏	会場 44名 Zoom 22名

創業スキルアップ講座 全11講座	令和4年12月9日 ～令和5年3月6日	創業予定者が必要とするスキルの習得を目的とする「経営、販路開拓、人材育成、財務」に関する連続講座を実施した。	150名
ビジネスプラン作成スクール	令和4年7月23日 ～令和4年11月23日	新規創業や新規事業化を図るとき必要となる事業計画の作成方法を学ぶ講座および個別相談による事業計画の作成支援を実施した。	21名

※詳細は、起業化促進事業 創業者の育成を参照

E 起業化・創業支援に係る相談

創業・起業を志す方に対し、インキュベーション・マネージャーや起業化支援専門員が随時個別相談を受付けた。

- ・相談件数 68件

F ビジネスマッチングの促進

第36回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネスEXPO）において、函館市産業支援センターとして、入居企業とともに「はこだてビジネス交流ゾーン」に出展した。

- ・会期 令和4年11月10日～11日
- ・会場 アクセスサッポロ（札幌市）

【函館市産業支援センター関係企業出展内容】

企業名	主な出展内容
サンテクノ(株)	BAT.MAN (Bluetooth) 接続バッテリーモニター 食品用F値ロガー「函館三郎」
(株)トータルデザインサービス	会社業務概要

(2) 産業支援センター財団独自事業

函館地域の新事業創出・起業化を支援するため、セミナー等を通じて、函館市産業支援センターのインキュベータールームやファクトリーのPRを行うほか、各支援機関等と連携して創業者への支援を行った。

ア 創業・起業に関する無料の窓口相談・個別相談

- ・随時、相談者に対応

イ 各支援機関等との連携

- ・相談者が活用できる制度等の紹介（北海道中小企業総合支援センター、中小機構北海道本部、日本政策金融公庫函館支店などと連携）
- ・先進地域での事例調査（公益財団法人大阪産業局ソフト産業プラザ TEQS ほか）
- ・他地域の関係機関との連携・交流

**3 創業者への育成・支援**

(1) 起業化促進事業

① 創業者の育成

ア 創業支援セミナー

創業意識の向上・醸成及び創業予定者が必要とする基礎知識の習得を目的として、下記のセミナーを開催した。

名称等	実施日	実施概要	参加人数
創業支援セミナー	令和4年6月2日 13:30～16:30	プレゼン作成実践セミナー 講師：(株)グローバル・コミュニケーションズ 専務取締役 笹谷 努 氏	13名

新規事業セミナー (共同主催) ・北海道中小企業家同友会函館支部 ・函館市・北斗市・七飯町	令和4年6月10日 18:30~20:30 ベルテック函館・Zoom	パート事務員から3つの会社の社長となった 成り上がりヒストリー ～たくさんの連携の手が夢をつかむ～ 講師 MDファクトリー(株) 代表取締役社長 川端 政子 氏	会場 44名 Zoom 22名
--	--	--	--------------------------

イ 創業スキルアップ講座

創業予定者、創業間もない経営者等を対象に、創業するとき必要とする経営、販路開拓、人材育成、財務等のスキルを習得することを目的とした講座を以下のとおり実施した。

- ・講座実施数 9回11講座
- ・延べ受講者数 110名
- ・修了者数 17名

テーマ名	実施日	実施場所	講師	受講者数
ホームページ・SNSの商品価値を高め生産性を向上させる！ 「上手な写真の撮り方・活かし方」	令和4年 12月9日	工技C 会議室	パソコン教室イエロームーン 主宰 馬場 明里 氏	10名
POP やキャッチコピーの改善で節約志向の客に商品を買ってもらおう方法	令和5年 1月20日	工技C 会議室	(有)いろは 代表取締役 竹内 謙礼 氏	16名
創業集中講座	令和5年 1月26日 ～27日	工技C 会議室	(株)イーバック 代表取締役 土井 尚人 氏	12名 10名
創業に必要なデザインとは？ ～ロゴ、パッケージから店舗づくりまで 考え方と作り方～	令和5年 2月8日	工技C 会議室	カラーコーディネーター 外崎 由香 氏	13名
伝わる資料作成のポイント/提案書や申請書の書き方	令和5年 2月15日	工技C 会議室	(株)ライズ・マーケティング・ジャパン 代表取締役 笹谷 努 氏	10名
手元のお金が増えるどんぶり勘定の磨き方	令和5年 2月21日	工技C 会議室	(株)神田どんぶり勘定事務所 代表取締役税理士 神田 知宜 氏	12名
その事業は儲かるのか？実際の経営を体感する	令和5年 3月2日	工技C 会議室	大鎌電気(株) 代表取締役 大鎌 幸雄 氏	17名
記者歴20年のベテランライターが教える！明日から使える文章作成術	令和5年 3月6日	工技C 会議室	ライター 山口 美紀 氏	10名

ウ ビジネスプラン作成スクール

創業者や創業予定者、新規事業に取り組む企業等を対象に、創業や事業推進に必要な事業計画の作成方法を習得することを目的に以下のとおり実施した。

- ・実施期間 令和4年7月23日～11月23日
- ・受講者数 21名
- ・修了者数 17名

日 程	内容	
令和4年 7月23日 ～11月23日 (全9講座)	第1講座から第8講座まで、毎回、座学(経営、販売方法、人材育成、財務など)を受講後、グループディスカッションによるビジネスプラン作成実習を行った。	
	令和4年11月23日 15:00～20:00 (第9講座) フォレストバイオ函館	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジネスプラン発表会(プレゼンテーション実習) 参加者数 50名 【最優秀賞】はこだて健康(株)グループ</li> <li>● 修了式</li> </ul>

講師・アドバイザー	所属等	氏名	
	エスイーシー・シープレックス(株) 営業顧問	小野 雅晴 氏	
	(株)ミュートネット 代表取締役	市村 淳一 氏	
	(株)I like IT 代表取締役	荒木 明美 氏	※講師のみ
	モノトーン・プレインズ 代表	山田 貴久 氏	※講師のみ
	(有)UP. START. COMPANY 代表取締役	佐藤 将道 氏	※講師のみ
	大鎌電気(株) 代表取締役	大鎌 幸雄 氏	
	とのさき社会保険労務士事務所	外崎 晋也 氏	
	中小企業診断士	番場 啓 氏	
	中小企業診断士	小野 雅弥 氏	
	函館大学 地域連携センター長 専任講師	佐藤 浩史 氏	
	日本政策金融公庫函館支店 融資課長	藪下 毅 氏	
	(公財) 函館地域産業振興財団		
	総務企画部 産業支援課長・S r - I M	金澤 透	
	〃 産業支援課 主査・I M	鈴木 浩樹	
	〃 産業支援課 専門員	石澤 道秀	
	創業支援アドバイザー	進藤 裕之	

② ネットワークによる創業支援

ア 創業相談窓口の設置

起業・創業相談に対応する専門員および創業支援アドバイザーを配置し、函館市産業支援センターの無料相談窓口等と連携して、随時創業相談を受付けた。

イ 起業家のフォローアップ

企業の経営面、技術面等の課題を解決するため、インキュベーション・マネージャー（IM）からの助言とともに、他の支援機関や制度の紹介などを行った。

・相談数118企業、個人（延べ260回）

ウ 函館きぎょう支援ネットワークによる事業化相談会  
2回

エ 支援者ネットワークとの連携

起業家を効率よく支援するための知識の習得や人的ネットワークを形成するため、日本ビジネス・インキュベーション協会の認定IM等との交流会等に参加するほか、先進地域のビジネスインキュベーション施設（BI）・各種イベントなどを視察した。

名称	実施日	内容	参加人数
北海道 IM 連携促進会スキルアップ 研修 (北見市・旭川市)	令和4年8月4日・5日	・起業化支援に関する情報収集、各地域の支援事例に関する情報交換を行った。	1名
JBIA シンポジウム 2022	令和4年11月4日	・起業化支援に関する情報収集、各地域の支援事例に関する講演・交流会に参加しノウハウの共有を図った	1名
北海道 IM 連携促進会スキルアップ 研修 (帯広市)	令和4年12月26日・27日	・起業化支援に関する情報収集、各地域の支援事例に関する情報交換を行った。	1名
産学連携クリエイティブネットワーク企業視察 (会津若松市)	令和5年2月6日・7日	・地域企業と共に福島県会津若松市の公的支援施設および企業を視察した。	1名
創業支援機関との情報交換 (大津市・東大阪市)	令和5年3月8日～10日	・起業化支援に関する情報収集、各地域の支援事例に関する情報交換を行った。	1名
創業支援施設視察・展示会情報収集 (京都市・大阪市)	令和5年3月7日～10日	・起業化支援に関する情報収集、支援事例に関する情報交換および展示会での情報収集を行った。	1名

## ③ 創業バックアップ助成金

函館地域において、新たに創業する者及び創業から5年以内の方（企業）の優れた事業計画に対し資金助成を行うため、審査を経て助成した。

助成金交付式開催日

- ・日 時 令和4年7月20日（水）13：30～14：30
- ・場 所 北海道立工業技術センター 会議室
- ・採択数 2件

	採択者名	認定事業名	助成額
一般枠 (函館市)	馬場電気管理事務所 代表 馬場 慎太郎 氏	道南の電気(産業)の安全を守る(電気の総合医、産業レスキュー)	1,000千円
一般枠 (函館市)	函館モノクラフトマーケット 代表 千葉 建介 氏	モノづくり体験の複合施設「クラフトベース モノクラ」	1,000千円

## 4 地域産業活性化

## (1) 広域的産業立地支援事業

函館地域経済牽引事業促進協議会の事務局を担い、企業誘致PRのため、ホームページからの情報発信と首都圏等で開催された展示会へのウェブ出展により、函館地域の産学官連携の現状、特に北海道立工業技術センター機能を活用した技術的な支援体制などの立地優位性をアピールした。

展示会名	開催期間	開催場所
企業立地フェア 2022	令和4年5月18日～5月19日	東京ビッグサイト
JAPAN IT WEEK 秋	令和4年10月26日～10月28日	幕張メッセ
メッセナゴヤ 2022	令和4年11月16日～11月18日	ポートメッセなごや
ふるさと北海道応援フォーラム	令和4年12月20日	ホテルメトロポリタンエドモント
北海道企業立地セミナー大阪	令和5年2月3日	インターコンチネンタル大ホテル大阪
彩の国ビジネスアリーナ	令和5年2月8日～2月10日	さいたまスーパーアリーナ

## 【収益等事業】

### 収1 受託等事業

(1) 受託研究開発事業

当財団が有する知識、技術及び施設を活用して、地域企業等から研究開発業務を受託し、委託先企業の技術高度化を図った。

- ・受託件数 4件 (※個別の研究テーマは北海道立工業技術センター業務報告に掲載)

(2) その他受託事業

当財団が有する知識、技術及び施設等を活用し、地域企業の経営基盤強化等に資する業務として、次の1件を受託した。

- ・函館市専門家派遣型IT・ロボット等活用支援事業における企業への診断助言業務

(3) 知的財産活用促進事業

令和4年度は、保有特許権等の実施契約はなかった。

## 財団運営課題について

新型コロナウイルスの影響もあり長引く日銀の金融緩和政策により、日本国債、地方債及び一般担保付社債等による従来型の基金運用だけでは、十分な事業資金の確保を当面見込めない状況にある。

こうした事業資金の大幅な不足状態に対し、これまでは事業規模の縮小や積立資金の取り崩しで対応してきたが、これにも限りがあり対策が必要な状況となっている。

長期的に持続可能な事業運営体制を構築するため、次の取り組みを継続して進めた。

### ① 基金の効率的な運用

これまでの基金運用方法の検討結果に基づき、基金の適正な維持管理を図りつつ財産管理運用規定の範囲内で効率的な運用を行った。

### ② 新たな外部資金事業の獲得及び収益事業の拡充

研究開発から販路開拓、創業支援まで一貫して支援できる財団の強みを生かし、新たな外部資金事業の獲得に努め、函館市と北大が事業主体の地方大学・地域産業創生交付金事業「函館マリカルチャープロジェクト」に参画し、研究開発事業を受託した。

一方、保有する知的財産権の利用促進、実施許諾による実施料収入増を図ったが、事業収入の拡充には至らなかった。

### ③ 賛助会員の増強

コロナの影響により企業にとって厳しい経営環境となっており賛助会員3社が退会し、一方で新たな入会は1社に留まり、2社の会員減となった。

### ④ 事業の安定的継続に向けた関係自治体との検討

公益財団法人として各種事業を安定的に継続する為の財源・方策等について関係自治体と検討を行うに当たり当財団の財政状況の分析と各種事業の自己評価結果を関係自治体に説明し、具体的な検討を始めた。

## 附属明細書について

令和4年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

令和5年5月

公益財団法人函館地域産業振興財団